

14. 和束町における文化遺産の活用

尾野和広・菱田哲郎・土井悠起

1. はじめに

和束町史の編さんにあたって、地域協働を一つの柱に据え、町民への情報提供とともに編さん事業への積極的な関与を促すなど、双方向の取り組みを進めてきた。そして、地域の方々に和束の歴史を説明できるスキルを身に付けてもらうことを目標として、普及にかかるいくつかのイベントを展開している。特に2020（令和2）年度からは「学ぼう和束の歴史」というイベントを開始し、高齢者だけでなく、子育て世代などファミリー層を対象として、普及活動をおこなっている。2021（令和3）年度はそれらに加えてさらに子供たちを対象として、普及活動を施すこととし、編さんの中心的な役割を果たしている京都府立大学文学部歴史学科の学生を巻き込んで、実施することを計画した。

京都府立大学文学部考古学研究室では、和束町史編さんの一環として、令和元年度に和束町園の福塚古墳、令和元年度から2020年度に同町撰原の坂尻古墳を測量調査し、それぞれ新たな知見を得ることができた。その成果は町史において重要な位置を占めるのであるが、上述した編さん室の取り組みに供する形で、活用事業をおこなうこととした。古墳のような顕著な文化遺産は、草刈りなどの手入れをおこなえば、地域の文化資源として活用し供することが容易であるという特性を持っている。研究室で取り組んでいるこうした文化遺産の地域資源化という目的にもそぐうため、町史編さん室とともに主体的に活用事業に取り組むこととした。実際には、調査に参加した4回生を軸に3回生とともにチームを作り、町史編さん室と連絡を取りつつ、和束小学校とも連携をはかり、3つの事業を行うことができた。以下、その内容について紹介する。

（尾野和弘・菱田哲郎）

2. 活動内容

（1）和束町史編さん室展示

本展示会は、2021年度9月4日から5日にかけて行われた（写真1）。展示の内容としては、町内に残っている古文書や和束町の生き物、古墳などを中心に扱った。古文書や生き物についての展示は町史編さん室の職員が担当し、古墳については京都府立大学文学部考古学研究室の学生を中心として事前準備、当日の解説を行った。学生は町内の坂尻古墳群や福塚古墳のポスター、古墳マップ、坂尻古墳群での測量調査の流れを解説するパネル、古墳について理解を深めてもらうためのパワーポイントなどを作成し、当日は来場者への解説に加えて展示会に関するアンケートを実施した。

来場者は2日間で約20人が訪れた。全体としては年配の方が多く、若年層の来場は少なかった。来場者は古墳についてあまり知らない方が多かったものの、比較的多くの方に今回の展



写真1 和東町史編さん室展示（9月4・5日）



写真2 学ぼう和東の歴史（10月30日）

示会を通して興味を持ってもらうことができた。しかし、来場者からは、「和東町民にとって和東の歴史や文化財は、あまり馴染みのないもので、遺跡などの保存に動いてくれる人はなかなかいないだろう」といった意見があった。

アンケートは9名の方に協力していただいた。アンケートの自由記述の中では、「義務教育の中に組み込んでほしい」「お茶のことぐらいいし知らず、和東にこのような古墳があるとは知らなかった」などの記述があった。また、和東町内の古墳に行ったことがあるかという質問では、8割程度の方が坂尻1・2号墳や太鼓山古墳を中心に行ったことがあると答えており、古墳の存在を認識している人は比較的多いということがアンケートからわかった。

（2）学ぼう和東の歴史

本イベントは、2021年度10月30日に和東町に住む小学生を対象に和東天満宮にて行われた（写真2）。イベントに先立ち、町史編さん室によって和東町に住む全住民に向けてチラシが配布され、また和東小学校にも小学生向けのチラシが配布されている。イベント内容としては、小学生に和東の歴史に興味を持ってもらうことを目的に、和東町の歴史に関する4つのチェックポイントを周遊しながらクイズに回答し、スタンプを集めるというものである。チェックポイントは和東天満宮、福塚古墳、和東天満宮の梵鐘、東和東小学校跡地に設定した。和東天満宮、東和東小学校跡地は町史編さん室の職員が解説を担当し、和東天満宮の梵鐘は和東町内に住む奈良大学の学生1名、福塚古墳は京都府立大学文学部考古学研究室の学生6名が担当した。京都府立大学の学生は、イベントに向けてスタンプ台紙や看板、埴輪をモチーフにした景品などを作成した。

当日は大人を含んだ計12名が訪れ、4つのグループに分かれて各チェックポイントを周遊してもらった。福塚古墳のチェックポイントにおけるクイズでは、同古墳のことを初めて知った人がほとんどだったものの、クイズには積極的に取り組む様子が見られた。クイズの難易度としては、大人から子供まで楽しめるような内容に設定しており、適切であったと思われる。夫婦で来場された方からは、「和東町のことを知る上で、このようなイベントを開催してくれることは非常にありがたい。今後もイベントがあればぜひ参加したい」という言葉をいただいた。しかしながら、小学生を対象にしたイベントにもかかわらず、小学生の来場がきわめて少ないという結果となり、事前の宣伝、小学校との連携不足など改善すべき課題が多く浮き彫りとなった。

(3) 坂尻古墳群現地説明会

本説明会は、2021年度1月22日に和東小学校の児童（希望者）を対象に行った。開催にあたっては2021年度1月17日に学生5人が和東小学校に赴き、全校集会の中で「古墳探検」への招待という形で普及活動を行った。イベントの周知は小学生のみならず、町史編さん室によって和東町内の全世帯にもチラシが配布されている。当日は和東町史体験センターにて学生による古墳についての解説を行い、その後坂尻古墳群へ移動し、クイズなどを通して古墳や付近の近世信楽道の解説などを行った（写真3）。来場者は小学生が16人、大人が11人であった。現地では来場した小学生を2つのグループに分け、古墳の解説と近世信楽道の解説を交替しながら行った。大人の来場者には、学生が本説明会の開催の趣旨を説明したうえで、京都府立大学教員の菱田哲郎氏と諫早直人氏により解説がおこなわれた。

当日の小学生たちからの反応は非常によく、中でも事前の和東小学校での普及活動で使った人物埴輪の被り物が大変人気であった。また、現地の地理に大変詳しい小学生もおり、信楽道に関するクイズも比較的容易に解く姿が見られた。石室内に実際に入ってもらったり、石室内から採取した動物骨なども小学生の興味を引き、イベントを通して楽しんで古墳の面白さを理解してもらうことができた。

3. 成果と課題

これまでそれほど積極的に遺跡の活用がおこなわれてこなかった和東町において、今回のような展示会やイベントを開催したことは、今後の活動の第一歩として位置づけられるのではないだろうか。また、来場者からの声やアンケートなどを通して現状の町民の文化財に対する意識を知ることができたという点でも意義のある活動となった。「和東町史編さん室展示」と「学ぼう和東の歴史」という2つのイベントでは、来場者が十分に集まらないことが課題となったが、1月の坂尻古墳群現地説明会においては、事前の小学校への普及活動の実施や、人物埴輪の被り物により子供たちにインパクトを残せたことが来場者の増加につながった。このように、それぞれのイベントでの課題をもとに、少しずつ活用方法や周知活動を改善することができたことも今回の大きな成果である。さらに、こうした活動を可能にしたのは、小学校との連携も挙げられる。和東小学校の校長先生とやり取りしながら、校内のアンケートを実施させていただいたり、チラシの配布、イベントへの申込用紙の回収などにもご協力いただいた。このような関係性を築くことができたのも、イベントの成功には欠かせないものであった。

一方で、今回の一連の活動の中では、和東の歴史を語ることでできる人材を育成することを1つの目的としていたが、そうした点では未達成であるといえるだろう。イベントとして楽しんでもらうことは前提であるが、地域住民側が文化遺産の保存活用に対する意識を持ったり、何らかのアクションを起こすきっかけにしていくこともこうしたイベントに求められるだろう。加えて、小学校や町史編



写真3 坂尻古墳群現地説明会（1月22日）

纂さん室との連携に関しても改善の余地がある。イベントの準備段階では、町史編さん室と大学とが個別に動いてしまったり、小学校と大学のやり取りが町史編さん室に伝わっていなかったりと、情報共有が十分に行えていないまま準備が進むこともあった。今後はよりそれぞれの主体の意識などをしっかりと共有しながら活動を行っていくことが必要になる。

4. 総括

今年度の和東町における活動は、大学としても町史編さん室としても新たな試みであり、今後の同地域における文化遺産の活用の足掛かりとなった。遺跡の調査やそれに伴う活用事業などがあまり活発に行われてこなかった同地域におけるこのような取り組みは、多分野との関わりや、小中学校での出前授業など、今後さらなる可能性を秘めている。今回は周知活動や様々な主体との連携などの点では課題が残ったが、今後はこれを踏まえより良い文化遺産の活用につなげていきたい。

(土井悠起)